

Session V 『化学療法』

18 胆道癌に対する GEM + CPT-11 を用いた時間治療の経験

宗岡 克樹・白井 良夫*・若井 俊文*
横山 直行*・坂田 純*・太田 宏信**
畠山 勝義**

新津医療センター病院外科
新潟大学大学院医歯学総合研究科
消化器・一般外科分野*
済生会新潟第二病院消化器科**

【目的】胆道癌に対する GEM + CPT-11 を用いた時間治療の有効性を検討する。

【方法】対象は進行・再発胆道癌 15 症例（男性 7 例，女性 8 例）であり，年齢は 42 才～78 才（中央値 64 才）であった。原発は胆嚢 7 例，胆管 8 例であり，転移部位は肝 4 例，リンパ節 4 例，肝＋腹膜 2 例，肝＋リンパ節 2 例，肝＋肺 1 例，腹膜 1 例，局所＋リンパ節 1 例であった。時間治療として GEM は午前 11 時から 1 時間かけて点滴静注し，CPT-11 を午後 5 時から 2 時間かけて点滴静注した。治療期間は 4～16 か月（中央値 6 か月）であった。

【結果】PR は 6 例，SD は 7 例，PD は 2 例であった。転移臓器別の奏効率は，肝転移 9 例中 5 例，リンパ節 4 例中 1 例で PR となった。Grade4 以上の副作用はなかった。

【結論】GEM + CPT-11 を用いた時間治療は胆道癌に対し有効である。

19 再発胆管・胆嚢癌に対するジェムザール (GEM) の使用経験

渡邊 隆興・河内 保之・西村 淳
新国 恵也・佐藤 洋樹・岡村 琢磨
清水 武昭*

厚生連長岡中央総合病院外科
厚生連村上総合病院*

2001 年から 2005 年まで当科にて，根治度 B 以上の手術後再発を認め，GEM を使用した 8 例。投与量は 1000mg/mm² を基本とし，外来投与し

た。再発形式は局所 5 例，肝 1 例，傍大動脈リンパ節 1 例，不明 1 例。GEM 開始時期は 1st5 例，2nd3 例。転帰は生存 6 例，死亡 2 例。生存日数は 372-1767（中央値 685）日。効果は腫瘍マーカーの減少を 5 例に認めた。画像上は，はっきりした効果は認められなかった。副作用は全例 CTC2 度以下で，倦怠感，発熱，嘔気，下痢，蕁麻疹，搔痒感等であった。GEM は，再発胆管・胆嚢癌に対し画像上の効果は認められなかったが，腫瘍マーカーの減少を認め，十分な効果とはいえないが，比較的安全に使用できると考えられた。

20 当科における膵癌化学療法の現況 — Gemcitabine 使用例についての検討

相場 恒男・古川 浩一・横尾 健
滝沢 一休・池田 晴夫・米山 靖
和栗 暢生・五十嵐健太郎・月岡 恵
新潟市民病院消化器科

Gemcitabine (GEM) と 5-FU の北米での無作為化比較試験において生存期間，症状緩和効果において優位な成績を示したことが 1997 年に報告され，GEM が進行膵癌治療に対する第一選択と位置づけられた。本邦では 2001 年に承認され，当科でも同年より進行膵癌化学療法の標準治療として導入している。今回，2003 年 4 月より 2006 年 3 月までの 3 年間に GEM 単独使用にて化学療法を実施した進行膵癌 45 例を対象に，当科の治療成績として生存期間，有害事象につき検討し，治療期間中の在宅率など外来化学療法としての有益性についても考察したので報告する。